Ⅲ　や　っ　ち　ゃ　ば　閑　話

「もう一つの選果場」

今年度から果実を担当し、上期が終わりました。昨年度に増して青果棟を歩き、何か良い・悪い・面白い情報が落ちていないか、情報収集にまわっているところです。

場内にて、卸売会社セリ人や果実専門店、仲卸買参人から様々な話を聞く中で、仲卸業務の一つ、果実のリパック作業（詰め替え）について改めて知るところがありました。

各仲卸は、顧客に合わせて、青果物を小袋詰めやパック詰めにし、量販店や専門店へ納品するところは既知のところでしたが、特に果実については、仲卸店頭にて、スタッフの目利きによって再度選果が行われているということを改めて知りました。

当たり前と言えば当たり前のことですし、詰め替えと同時に産地で除ききれなかった傷んだ果実等を除いているのは当然と思っていたところです。しかし、その想定以上に、顧客の求めるグレードに合わせて再選果し、求める形態にリパックして納めているとのことで、仲卸は再選果・再調製施設だと認識を改めたところです。（※個人の感想です。）

品目例として、ほんの少しでも触ったら傷むイメージのある「もも」は、仲卸にて、手際よくフルーツキャップを被せて小箱やパックに分ける作業が行われています。

県産品目「びわ」は、仲卸にて、輸送時に傷みが発生することを想定の上で、多めに仕入れた化粧箱をすべて開け、傷みが無いことを確認の上で詰め直すと伺いました。

また、化粧箱そのままで家庭用に買う購買層は少なく、贈答用のままでは流通量が限られてしまうとのことから、一部は仲卸にて、量販店向けに５粒、６粒等のパックに詰め替えているとのことでした。

また、「なし」は、仲卸にて予め多めに仕入れた上で、果皮の色にムラの無い、形状の揃った果実を選び、専門店等顧客の要望に沿った形態で納品しているとのことでした。

高級果物店の某何疋屋では、県産幸水 10kg28 玉サイズが１玉税込 1,620 円で売られていました。リパックされた手間と、仲卸、小売り双方の目利きにより厳選された付加価値が加味された値段なのだと思い知ったところです。梨１玉…高すぎます。（※個人の感想です。）

（チーバくんの鼻の先）